

# 令和3年度 決算審査

## 一般会計決算を2年連続不認定

### 特別会計決算10件、企業会計決算2件は認定

#### 審査の概要

9月15日の本会議で令和3年度決算審査特別委員会（議長を除く28人の議員で構成）を設置しました。

9月28日の決算審査特別委員会では、決算議案の説明および監査意見報告を受けた後、常任委員会の所管ごとに4つの分科会を設置しました。

分科会では、市の担当部署から説明を受け、質疑を行うなど、詳細な審査を行いました。

10月11日には、再び特別委員会を開き、各分科会の審査内容報告の後、4人の議員から一般会計決算について意見表明があり、採決の結果、賛成少数で不認定としました。

10月12日の本会議では、特別委員会の審査報告、一般会計決算について賛成・反対討論の後、採決を行い、賛成少数で不認定としました。なお、特別会計・企業会計決算計12件は、全会一致で原案どおり認定しました。

#### 一般会計の決算状況

<b>歳入 (A)</b>	<b>歳出 (B)</b>	<b>形式収支 (C=A-B)</b>	<b>繰越財源 (D)</b>	<b>実質収支 (C-D)</b>
1301億3809万円	1279億6065万円	21億7744万円	9億381万円	12億7363万円

#### 決算のポイント

一般会計の歳入は11.6%、歳出は11.9%減少し、令和元年度以来、2年ぶりの減となりました。一般会計の実質収支額は、12億7千万円と46年連続の黒字。財政基金と減債基金からの繰入金を除くなどした実質的な単年度収支は、4億1千万円と2年連続の黒字となりました。特別会計（国民健康保険事業や介護保険事業など）は、実質収支で6会計が黒字、4会計は収支差引ゼロとなったほか、企業会計（水道事業、下水道事業）の2事業は黒字となりました。

#### 基金と市債の状況

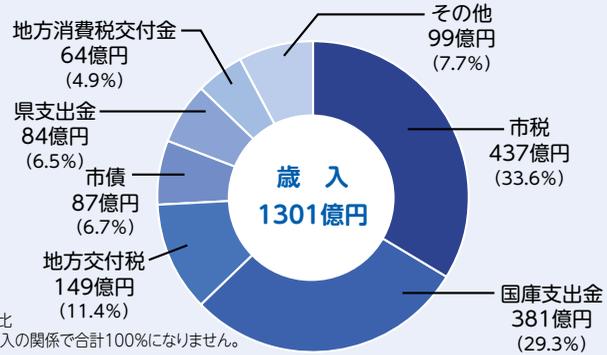
市の貯金である財政基金など3基金の現在高は121億円で、8億6千万円の増。借金である市債の一般会計の現在高は、1167億7千万円で、25億1千万の減。

#### 市財政の健全度

財政破綻を未然に防ぐための「財政健全化法」では、健全度を判断する4つの指標（健全化判断比率）を市民に公表することを義務付けています。本市の指標は、右表のとおりで、全ての基準を満たしています。

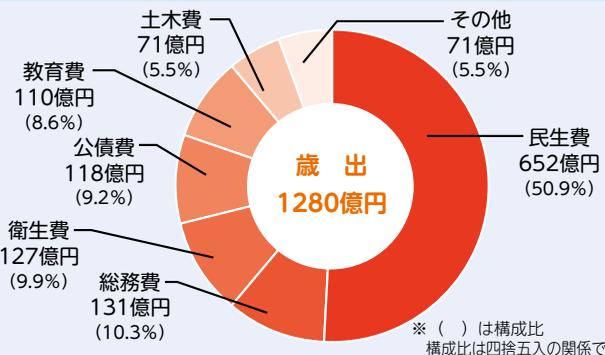
健全化判断比率	本市の令和3年度決算	法で定める早期健全化基準
実質赤字比率 (一般会計の年間赤字割合)	-	11.25%
連結実質赤字比率 (全ての会計の年間赤字割合)	-	16.25%
実質公債費比率 (借金返済の割合)	3.6%	25.0%
将来負担比率 (将来負担が見込まれる負債割合)	22.0%	350.0%

※実質赤字比率と連結実質赤字比率は、赤字でないため値なしとして「-」表示



※（ ）は構成比  
構成比は四捨五入の関係で合計100%になりません。

前年度比で市税は、給与所得の減などにより個人市民税が減少した一方、徴収猶予分の納付により固定資産税が増加したほか法人市民税なども増加し、7千万円の増。国庫支出金は、特別定額給付金にかかる国庫補助金などの減少により213億円の減。地方交付税は、国勢調査人口の増加や国税収入の増加による追加交付で普通交付税が増加し、41億円の増。



※（ ）は構成比  
構成比は四捨五入の関係で合計100%になりません。

前年度比で民生費は、私立保育所・認定こども園等整備事業費などの減少があった一方、子育て世帯や住民税非課税世帯等に対する臨時特別給付金給付事業費の増加などにより68億円の増。総務費は、市民全員・飲食店サポート事業費の増加があった一方、特別定額給付金給付事業費や国勢調査事業費の減少などにより274億円の減。

## 災害にも強いまちを構築

【担当分野】道路や河川、公園などの整備や都市計画、上下水道など、市民生活の基盤となる分野を審査します。

——重点的に取り組む事項  
誰もが住みたいと思うまちの実現に向けて、今年策定されたあかしSDGs推進計画を踏まえ、市の都市計画に関する基本的な方針を定める「明石市都市計画マスタープラン」と誰もが安心して移動できる持続可能な交通体系の確立を目指す「明石市総合交通計画」の改定を検討しています。



まつい くみこ  
松井 久美子

【議会歴】  
在職6期。議長、副議長、監査委員、議会運営委員長などを歴任。69歳。

や南畑踏切に横断歩道を設置する安全対策、安全・安心な水道水が提供できるよう水源を明石川河川から転換し、阪神水道企業団から新規に受水するための取り組みを進めています。

——委員長として一言  
市民の皆さまに安心して暮らしていただける都市基盤の整備を進め、災害にも強い持続可能なまちを構築してまいります。

### 建設企業 常任委員長に聞く

## コロナ禍における市民生活の安定を

【担当分野】コミュニティや文化・スポーツ、環境、産業振興など、市民生活に身近な分野を審査します。

——重点的に取り組む事項  
新型コロナウイルス感染症の流行も3年が過ぎ、さまざまな事業で新しい考え方や生活様式の転換が行われています。その中で、国や県の支援策なども注視しながら市民生活に直結した案件を議論しています。市民にとって必要な施策の優先順位を見極め、経費に無駄はないかなど、さまざまな意見を出し合い議論を深めています。



あきはら なりひと  
穂原 成人

【議会歴】  
在職4期。議長、副議長、監査委員、議会運営委員長などを歴任。63歳。

また、全ての案件にSDGsの考え方を取り入れ、持続可能性を念頭に置いた考え方や人権施策に見合う内容のかなど、議員の提案も合わせながら市民の生活を最優先に審査していきます。

——委員長として一言  
「明石市内で生活や事業をしている全ての人々へ」を信条に、他の市の先進事例なども調査研究しながら取り組みます。

### 生活文化 常任委員長に聞く